

平成25年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	豊橋技術科学大学	整理番号	R03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) おお にし たかし 氏名・職名 大 西 隆 豊橋技術科学大学学長		
2. プログラム責任者	(ふりがな) いの うえ みつ てる 氏名・職名 井 上 光 輝 豊橋技術科学大学理事・副学長(学務担当)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) なか うち しげ き 氏名・職名 中 内 茂 樹 豊橋技術科学大学情報・知能工学系教授		
4. 類型	R<複合領域型(情報)>		
5.	プログラム名称	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成	
	英語名称	Innovative program for training brain-science-information-architects by analysis of massive quantities of highly technical information about the brain	
	副題	最先端エレクトロニクスと脳科学メディカルフォトンクスで、脳を学び、脳に学ぶ	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(工学)、学位記に「リーディング大学院:ブレイン情報アーキテクト養成プログラム」を明記する		
7. 主要分科	(① 人間情報学) (② 脳科学) (③ 人間医工学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 認知科学、脳計測科学、電子デバイス・電子機器		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	電気・電子情報工学専攻、情報・知能工学専攻、環境・生命工学専攻、 機械工学専攻、建築・都市システム学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	浜松医科大学(医学部、メディカルフォトンクス研究センター)、東京大学(大学院理学系研究科、医科学研究所)、東京女子医科大学(先端生命医科学研究所)、京都大学(学術情報メディアセンター)、Massachusetts Institute of Technology(Department of Materials Science and Engineering)、Moscow State University(Magnetism Department, Faculty of Physics)、University College London(Institute of Biomedical Engineering)、Royal Institute of Technology(Condensed Matter Physics)、THE SCRIPPS RESEARCH INSTITUTE(DEPT OF MOLECULAR BIOLOGY)、産業技術総合研究所、理化学研究所横浜研究所、国立情報学研究所、自然科学研究機構生理学研究所、本多電子機、浜松ホトニクス機		

14. プログラム担当者の構成 計 56名					
外国人の人数	6 人	[10.7%]	女性の人数	5 人	[8.9%]
プログラム実施大学に属する者の割合		[41.1%]			
プログラム実施大学に属する者		23 人	プログラム実施大学以外に属する者		33 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者		22 人	そのうち、大学等以外に属する者		8 人

15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成27年度における役割)
(プログラム責任者) 井上 光輝	イノウエミツテル		理事・副学長(学務担当)	スピン電子工学・工学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 中内 茂樹	ナカウチシゲキ		大学院工学研究科 情報・知能工学専攻・教授	視覚認知情報学・工学博士	プログラムコーディネーター リーディング大学院教育推進機構機構長
石田 誠	イシダマコト		特別顧問/特命教授	半導体工学・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 バイオセンシング担当
若原 昭浩	ワカハラアキヒロ		大学院工学研究科 電気・電子情報工学専攻・教授	半導体工学・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 ブレイン情報LSI担当
松田 厚範	マツダアツノリ		大学院工学研究科 電気・電子情報工学専攻・教授	無機材料科学・博士(工学)	リーディング大学院教育推進機構機構員 ナノフォトニクス担当
柴田 隆行	シバタタカユキ		大学院工学研究科 機械工学専攻・教授	MEMS/NEMS・博士(工学)	リーディング大学院教育推進機構機構員 バイオセンシング担当
福田 光男	フクダミツオ		大学院工学研究科 電気・電子情報工学専攻・教授	フォトニクス・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 ナノフォトニクス担当
澤田 和明	サワダカズアキ		大学院工学研究科 電気・電子情報工学専攻・教授	集積回路工学・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 バイオセンシング担当
浴 俊彦	エキ トシヒコ		大学院工学研究科 環境・生命工学専攻・教授	分子生物学・薬学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 ゲノム機能解析担当
堀川 順生	ホリカワジュンセイ		大学院工学研究科 情報・知能工学専攻・教授	神経科学・医学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 脳情報デコーディング担当
大平 孝	オオヒラタカン		大学院工学研究科 電気・電子情報工学専攻・教授	波動工学・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 バイオセンシング担当
寺嶋 一彦	テラシマカズヒコ		副学長(研究担当) 大学院工学研究科機械工学専攻・教授	制御工学・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 バーチャルブレイン・シミュレーション担当
三浦 純	ミウラジュン		大学院工学研究科 情報・知能工学専攻・教授	知能ロボティクス・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 バイオセンシング担当
栗山 繁	クリヤマシゲル		大学院工学研究科 情報・知能工学専攻・教授	画像工学・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 バーチャルブレイン・シミュレーション担当
岡田 美智男	オカダミチオ		大学院工学研究科 情報・知能工学専攻・教授	社会的ネットワーク工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 バーチャルブレイン・シミュレーション担当
青野 雅樹	アオノマサキ		大学院工学研究科 情報・知能工学専攻・教授	マルチメディア 検索・Ph.D.	リーディング大学院教育推進機構機構員 脳情報デコーディング担当
後藤 仁志	ゴトウヒトシ		大学院工学研究科 情報・知能工学専攻・准教授	計量化学・博士(理学)	リーディング大学院教育推進機構機構員 バーチャルブレイン・シミュレーション担当
井佐原 均	イサハラヒトシ		情報メディア基盤センター・教授	知識情報学・博士(工学)	リーディング大学院教育推進機構機構員 脳情報デコーディング担当
田中 三郎	タナカサブロウ		大学院工学研究科 環境・生命工学専攻・教授	超伝導電子工学・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 バイオセンシング担当
原 啓人	ハラヒロト		豊橋技術科学大学(エレクトロニクス先端融合研究所)・特命教授	生命科学・医学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 ナノフォトニクス担当
中川 聖一	ナカガワセイイチ		リーディング大学院教育推進機構 特任教授	音声言語処理・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 脳情報デコーディング担当
石井 仁	イシイヒロム		豊橋技術科学大学 リーディング大学院教育推進機構特任教授	バイオ集積化 MEMS・博士(理学)	リーディング大学院教育推進機構機構員 バイオセンシング担当
松本 博	マツモトヒロシ		豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 建築・都市システム学専攻・教授	建築環境学・工学博士	リーディング大学院教育推進機構機構員 脳情報デコーディング担当
AlexanderGranovsky	アレクサンダー グラノフスキー		豊橋技術科学大学院工学研究科・客員教授 Professor, Magnetism Department, Faculty of Physics, Moscow State University	Magnetism・Ph.D.	リーディング大学院教育推進機構機構員 ナノフォトニクス担当
Alex Grishin	アレックス グリシン		豊橋技術科学大学院工学研究科・客員教授 Professor in Condensed Matter Physics, Royal Institute of Technology (KTH)	Condensed Matter Physics/Ph.D.	リーディング大学院教育推進機構機構員 ナノフォトニクス担当
臼井 支朗	ウスイシロウ		理化学研究所・脳科学総合研究センター 神経情報基盤センター 研究嘱託 豊橋技術科学大学 名誉教授	神経情報工学・Ph.D.	リーディング大学院教育推進機構機構員 推進本部メンバー

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
Sandhu Adarsh	サンドゥー アダルシュ		電気通信大学大学院情報理工学研究科・教授 豊橋技術科学大学大学院工学研究科客員教授	ナノ・ハイパオレトロンクス・ PhD(理学博士)	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
関野 秀男	セキノヒデオ		Stony Brook University, Research Professor 東京工業大学理学院 特定教授 豊橋技術科学大学 名誉教授	理論化学 理学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バーチャルブレイン・シミュレーション担当
山本 清二	ヤマモトセイジ		浜松医科大学メディカルフォトニクス 研究センター・ 教授 豊橋技術科学大学大学院工学研究科・客員教授	光医学・ 博士(医学)	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
瀬藤 光利	セトウミツトシ		浜松医科大学・医学部・教授	医学・ 医学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
梅村 和夫	ウメムラカズオ		浜松医科大学・医学部・教授 豊橋技術科学大学大学院工学研究科・ 客員教授	薬理学・ 博士(医学)	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
小川 美香子	オガワミカコ		浜松医科大学・光子医学研究センター准教授	分子イメージング 薬学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
間賀田 泰寛	マガタヤスヒロ		浜松医科大学・メディカルフォトニクス研究センター教 授	核薬学・ 薬学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
福田 敦夫	フクダアツオ		浜松医科大学・医学部・教授 豊橋技術科学大学大学院工学研究科・客員教授	神経科学・ 医学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
尾内 康臣	オウチヤスオミ		浜松医科大学・メディカルフォトニクス研究センター教 授	神経機能画像 学・医学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
宮嶋 裕明	ミヤジマヒロアキ		浜松医科大学・医学部・教授	神経内科学・ 医学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
曾根原 登	ソネハラノボル		国立情報学研究所・情報社会相関研究系・教授	人間中心のサイ バーフィジカル融合 社会の研究 工学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
小松 英彦	コマツヒデヒコ		自然科学研究機構生理学研究所・感覚認知情報研 究部門教授・ 豊橋技術科学大学大学院工学研究科・客員教授	システム 神経科学・ 工学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
中島 浩	ナカジマヒロシ		京都大学・学術情報メディアセンター・教授	計算機科学・ 博士(工学)	リーディング大学院教育推進機構構成員 バーチャルブレイン・シミュレーション担当
宮野 悟	ミヤノサトル		東京大学・医科学研究所・教授	バイオインフォマティ クス・理学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バーチャルブレイン・シミュレーション担当
北野 宏明	キタノヒロアキ		ソニーコンピュータサイエンス研究所・取締役所長	システムバイオロ ジー 工学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
明渡 純	アケドジュン		(独)産業技術総合研究所・先進製造プロセス研究部 門 首席研究員(兼)班長 豊橋技術科学大学大学院工学研究科・客員教授	マイクロアキュエタ 工学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 ナノフォトニクス担当
鎮西 清行	チンセイキヨユキ		(独)産業技術総合研究所・健康工学研究部門・ 副研究部門長	生体医工学・ 博士(工学)	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
加藤 且也	カトウカツヤ		(独)産業技術総合研究所・中部センター無機機能材 料研究部門・粒子機能化ギジュツグループ・グループ長	生物化学・ 農学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
Quentin Pankhurst	クエンティンパンクハースト		Director, UCL Institute of Biomedical Engineering, University College London	Bio・Ph.D.	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
Caroline Anne Ross	キャロラインアンロス		Professor and Associate Department Head, Massachusetts Institute of Technology, Department of Materials Science and Engineering 豊橋技術科学大学大学院工学研究科・客員教授	Functional materials Ph.D.	箇所リーディング大学院教育推進機構構成員 ナノフォトニクス担当
平松 光夫	ヒラマツミツオ		浜松ホトニクス株式会社 中央研究所・第8研究室・室長	微弱発光・ 博士(工学)	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
小林 和人	コバヤシカズト		本多電子株式会社・研究部・部長	超音波工学・ 医工学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
Charles R. Cantor	チャールズカントール		ADJUNCT PROFESSOR, DEPT OF MOLECULAR BIOLOGY, THE SCRIPPS RESEARCH INSTITUTE	Chemistry・ Ph.D.	リーディング大学院教育推進機構構成員 ゲノム機能解析担当
塩見 美喜子	シオミミキコ		東京大学大学院理学系研究科 教授 慶應義塾大学(医学部)・准教授	分子生物学・ 博士(医博)	リーディング大学院教育推進機構構成員 ゲノム機能解析担当
宮本 悦子	ミヤモトエツコ		東京理科大学生命医科学研究所 准教授	分子生物学・ 工学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 ゲノム機能解析担当
岡野 光夫	オカノミツオ		東京女子医科大学先端生命医科学研究所・特任教 授	再生医療・ 工学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
林崎 良英	ハヤシザキヨシヒデ		独立行政法人理化学研究所 予防医療・診断技術開発プログラム プログラムディレクター	オミックス・ 医学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 脳情報デコーディング担当
岡田 眞里子	オカダマリコ		独立行政法人理化学研究所統合生命医科学研究所 統合細胞システム研究チーム・チームリーダー	システムバイオロ ジー 博士(農学)	リーディング大学院教育推進機構構成員 ゲノム機能解析担当
蓑島 伸生	ミノシマシンセイ		浜松医科大学・副学長(研究担当)・ 先端医学教育研究センター長・教授	分子生物学・ 理学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当
今井 正治	イマイマサル		大阪大学大学院情報科学研究科情報システム専攻・教 授 豊橋技術科学大学大学院工学研究科・客員教授	ハードウェア/ソフトウェア・ コーディング手法 工学博士	リーディング大学院教育推進機構構成員 バイオセンシング担当

(機関名:豊橋技術科学大学 類型:複合領域型(情報) フロラム名称:超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成)

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 * (今後の募集予定: 有・無)	
プログラム募集定員数 (実数)	人	10人	10人	10人	
① 応募学生数	人	10人	13人	9人	
	うち留学生数	人	人	3人	1人
	うち自大学出身者数	人 (人)	10 (人)	13 (3人)	9 (1人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)
	うち社会人学生数	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)
うち女性数	人 (人)	2 (人)	2人 (2人)	人 (人)	
② 合格者数	人	8人	11人	8人	
	うち留学生数	人	人	1人	1人
	うち自大学出身者数	人 (人)	8 (人)	11 (1人)	8 ((1人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人
	うち社会人学生数	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)
うち女性数	人 (人)	2 (人)	1人 (1人)	人 (人)	
③ ②のうち受講学生数	人	8人	7人	8人	
	うち留学生数	人	人	人	1人
	うち自大学出身者数	人 (人)	人 (人)	7人 (人)	8人 (1人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)
	うち社会人学生数	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)
うち女性数	人 (人)	2 (人)	人 (人)	人 (人)	
プログラム合格倍率 (①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	0.00倍	1.25倍	1.18倍	1.13倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	0.00%	80.00%	110.00%	80.00%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成28年度* (今後の募集予定:有・無)については、平成28年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度	平成30年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成25年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成26年度選抜							6		2			8	3		2			5			3		2	5		
うち留学生数												0						0						0		
うち自大学出身者数							6		2			8	3		2			5			3		2	5		
うち他大学出身者数												0						0						0		
うち社会人学生数												0						0						0		
うち女性数							2					2						0						0		
平成27年度選抜													5		2			7			5		2	7		
うち留学生数																		0						0		
うち自大学出身者数													5		2			7			5		2	7		
うち他大学出身者数																		0						0		
うち社会人学生数																		0						0		
うち女性数																		0						0		
平成28年度選抜																			8					8		
うち留学生数																			1					1		
うち自大学出身者数																			8					8		
うち他大学出身者数																								0		
うち社会人学生数																								0		
うち女性数																								0		
計	0	0	0	0	0	0	6	0	2	0	0	8	5	3	2	2	0	12	8	5	3	2	2	20		
うち留学生数																								1		
うち自大学出身者数																								20		
うち他大学出身者数																								0		
うち社会人学生数																								0		
うち女性数																								0		
修了者数(予定者を含む)																					2				2	3
就職者数																										
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																										

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度	平成30年度			
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計					
平成25年度 選抜					0					0					0					0					
	うち留学生数				0					0					0					0					
	うち自大学出身者数				0					0					0					0					
	うち他大学出身者数				0					0					0					0					
	うち社会人学生数				0					0					0					0					
うち女性数				0					0					0					0						
平成26年度 選抜										0					0					0					
	うち留学生数									0					0					0					
	うち自大学出身者数									0					0					0					
	うち他大学出身者数									0					0					0					
	うち社会人学生数									0					0					0					
うち女性数									0					0					0						
平成27年度 選抜															0					0					
	うち留学生数														0					0					
	うち自大学出身者数														0					0					
	うち他大学出身者数														0					0					
	うち社会人学生数														0					0					
うち女性数														0					0						
平成28年度 選抜																				0					
	うち留学生数																			0					
	うち自大学出身者数																			0					
	うち他大学出身者数																			0					
	うち社会人学生数																			0					
うち女性数																			0						
計		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0		0
	うち留学生数																				0				
	うち自大学出身者数																				0				
	うち他大学出身者数																				0				
	うち社会人学生数																				0				
うち女性数																				0					
修了者数(予定者を含む)																									
就職者数																									
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																									

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

プログラムの概要

本プログラムは、人間の理解に立脚した新しい情報エレクトロニクスを実現する博士人材の養成を目的として、ゲノムから脳、個人・社会に至る多様な時空間スケールの脳情報に対し、センシングやシミュレーション技術を駆使して脳科学の様々な課題解決に直接結びつけるとともに、この脳に学んだ新しい原理を新規のエレクトロニクスデバイスや情報処理方式に展開できる能力をもつ人材「ブレイン情報アーキテクト」を養成するための新しい博士課程教育プログラムを産業界と協力して構築するものである。

そのために、本学が21世紀COE事業やグローバルCOE事業、様々なCREST/PRESTO事業を通じて培ってきたエレクトロニクス先端融合科学技術教育の方法を、①ゲノム機能解析、②バイオセンシング、③ナノフォトニクス、④脳情報デコーディング、⑤バーチャルブレイン・シミュレーションの5つの分野における先端科学技術教育として強化し、これを浜松医科大学のメディカルフォトニクスを中核とする強い脳研究実績と稀有な脳情報イメージングインフラ設備と深く連携させ、かつ産業界と密接な教育連携を図ることで、ブレイン情報アーキテクトとしての能力と資質を併せ持つ博士人材を世界に先駆け養成するものである。

プログラムの特色

上述のブレイン情報アーキテクトの育成のため、従来の博士課程教育では踏み込むことのできなかった以下の取り組みを有機的に連携させた特色ある教育プログラムである。

(1) グループ指導教員体制と産学官連携による社会ニーズを踏まえた研究テーマの設定

本学教員、国内外連携大学・研究所教員、企業等からの客員・特任教員で構成するグループ指導教員体制により、学生の多彩なニーズとキャリアパスに対応した大規模脳情報に基づく複合分野の教育研究内容を決定する。博士課程研究テーマは、博士前期課程2年次に、企業・研究機関等とのマッチングを基本に、社会的重要性を見据えたテーマを設定する。PDCA (Plan, Do, Check, Action) 実施による「解の見えない問題」への対応力強化を行う。

(2) 実践的リーダー育成のための3段階の学外実務訓練

博士前後期課程で、本学の海外キャンパス(マレーシア・ペナン)の機能も活用しながら、①脳科学インターンシップ、②グローバル・サマースクール、③博士後期実務訓練の3段階の大学・研究機関・企業へのグローバルな長期実務訓練を必修科目として課し、キャリアパスの形成を図る。

(3) ブレイン情報アーキテクトの能力と資質とを併せもつ学生の獲得

将来のリーダー候補生として高専本科卒業生に募集する「高専特別推薦入試」で学部3年次に編入学した選ばれた学生を主体とする他、高専機構との連携により、全国51の国立高専専攻科を卒業したモノ作りに秀でる優秀な学生や、海外キャンパスが位置するマレーシア科学大学等からの優秀な留学生、社会人等の次代のリーダー候補生を対象とする。

(4) 6段階の学位審査と産学官連携の学位審査体制

博士(工学)「ブレイン情報アーキテクト」の学位は、①予備進学資格審査(M1)、②進学資格審査(M2)、③実務訓練履修資格審査(D1)、④研究進捗状況審査(D2)、⑤学位予備審査(D3)、⑥学位本審査(D3)6段階の審査を経て授与する。また学位審査は、プログラム担当者と産学官とが連携して組織する開かれたリーディング大学院審査委員会で、研究実績、国際力、イノベーション力を視点に行う。

プログラムの優位性

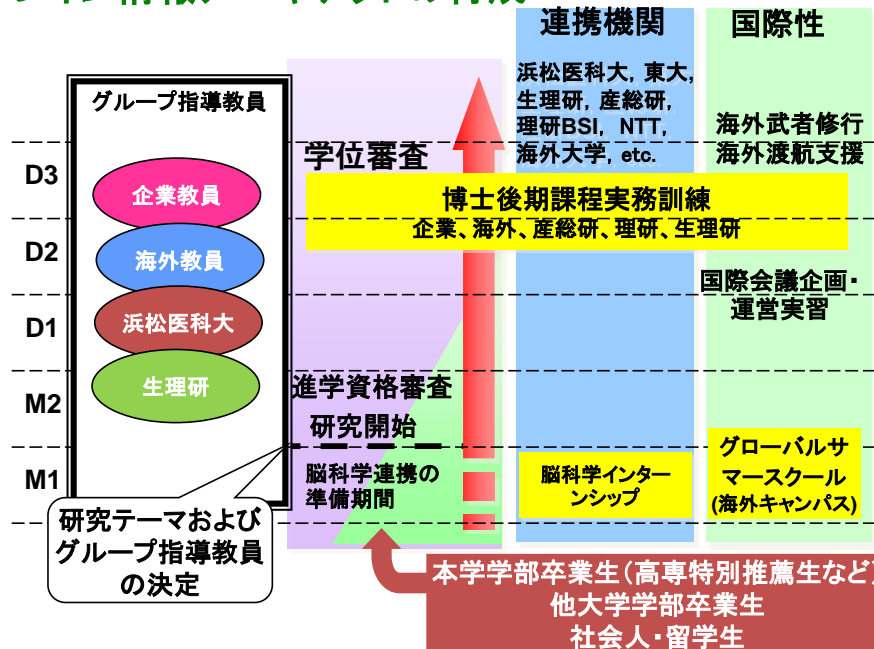
- (1) 本学における異分野融合実践的技術教育資源、ならびにエレクトロニクス先端融合研究所(EIIRIS)が誇る世界的にも突出した情報エレクトロニクス研究開発成果と環境を基盤としていること。
- (2) これまで共同研究を推進してきた浜松医科大学のメディカルフォトニクス研究所との連携実績や、その世界的にも稀有な極めて充実した脳情報イメージングインフラの多様な活用を通じた博士人材養成であること。また同大学が推進する国際イノベーション研究拠点として目指す未来科学技術を支える新しい情報エレクトロニクス博士人材を養成すること。
- (3) さらに連携研究機関の自然科学研究機構生理学研究所等の脳科学教育研究資源や国立情報学研究所等の脳情報教育研究資源を深く結びつけると同時に、国内外教育研究機関、さらには光・医療産業界とも強く連携したものであること。

これらの優位性を反映して、本プログラムは実効性が極めて高く、またキャリアパスが明確な産学官協働博士課程プログラムである。こうした産学官が密接に連携したブレイン情報アーキテクト養成プログラムは国内外を通じて例がなく、高専卒業生をさらに高度な技術者・研究者に育成する使命と実績を有し、国際的にも極めて優れた研究成果を有する国立大学法人豊橋技術科学大学によってのみ実施可能であり、他の教育機関では容易に真似のできない独創的な博士教育課程プログラムといえる。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

ブレイン情報アーキテクトの育成



ブレイン情報アーキテクトに必要なとされる技術



全学的な支援体制

